

# ふじさわ「まち・ひと・しごと」ビジョン

藤沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略

2016年（平成28年）3月

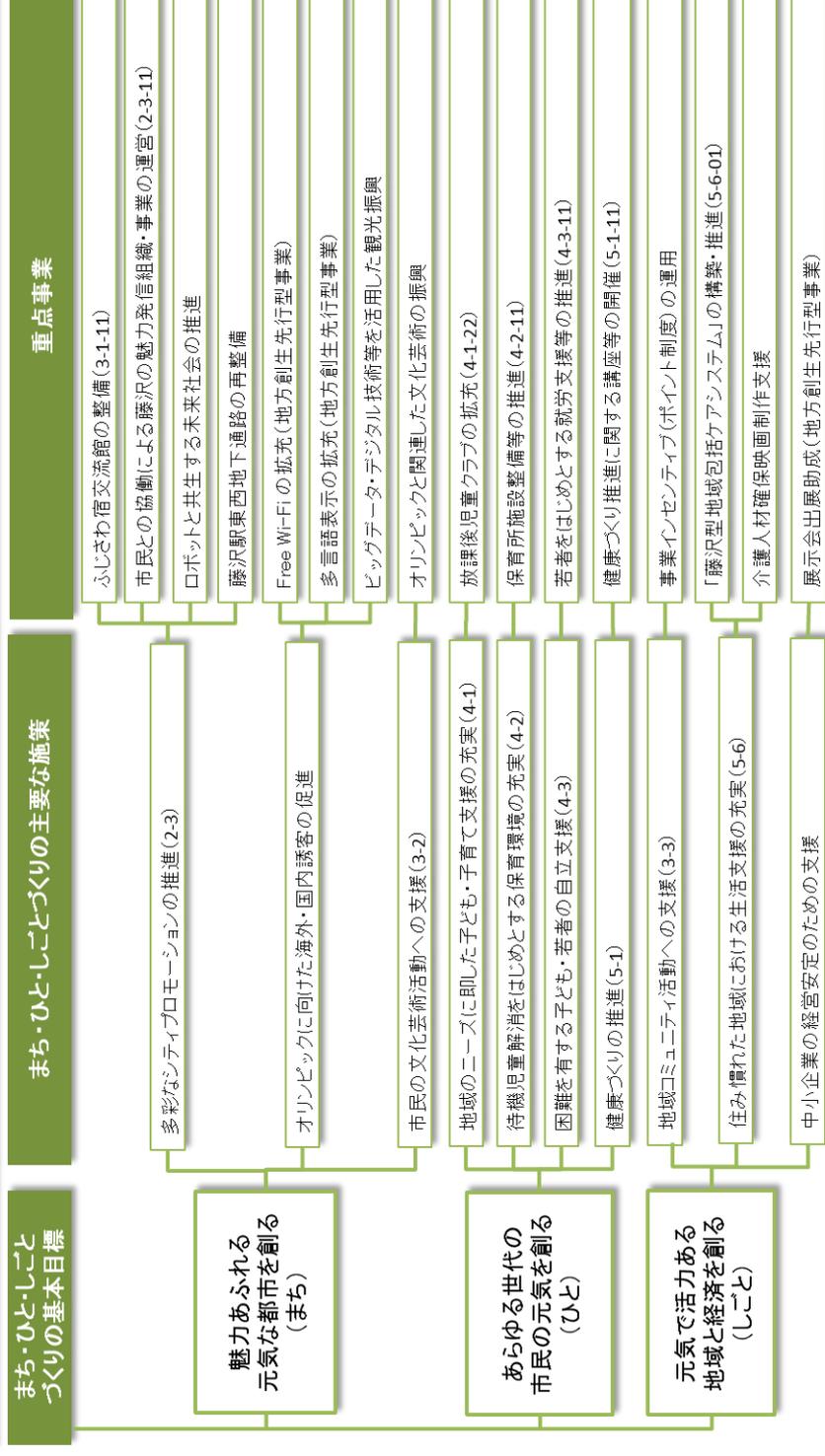
2021年（令和3年）4月 一部改訂

藤 沢 市



人口と都市政策の基本方針（人口ビジョン）

2050年まで人口40万人を維持し、高齢化率40%になっても都市と市民生活の質的低下を招くことなく、都市を『元気』に持続する。



## 1 はじめに

藤沢市は首都圏に位置し、自然、産業、住宅、教育等の環境がバランス良く備わり、多くの市民に愛され、住み続けたいまちとなっています。また2020年（令和2年）には東京2020オリンピックのセーリング競技会場に江の島（湘南港）が決定し、活力あふれる都市への期待が持たれます。

一方で、高度経済成長期に住宅都市として成長を遂げてきたことから、今後の超高齢化による福祉、医療、介護等のサービス需要の増加や、社会保障費の対応が大きな課題となっており、公共施設の老朽化対策と合わせ、持続的な都市、市民生活の形成に向けて、人口構成の変化を踏まえた対応が必要となってきます。

そのため、まち・ひと・しごと創生法の規定に基づく地方版総合戦略として、「ふじさわ「まち・ひと・しごと」ビジョン」を策定します。

## 2 将来の見通し

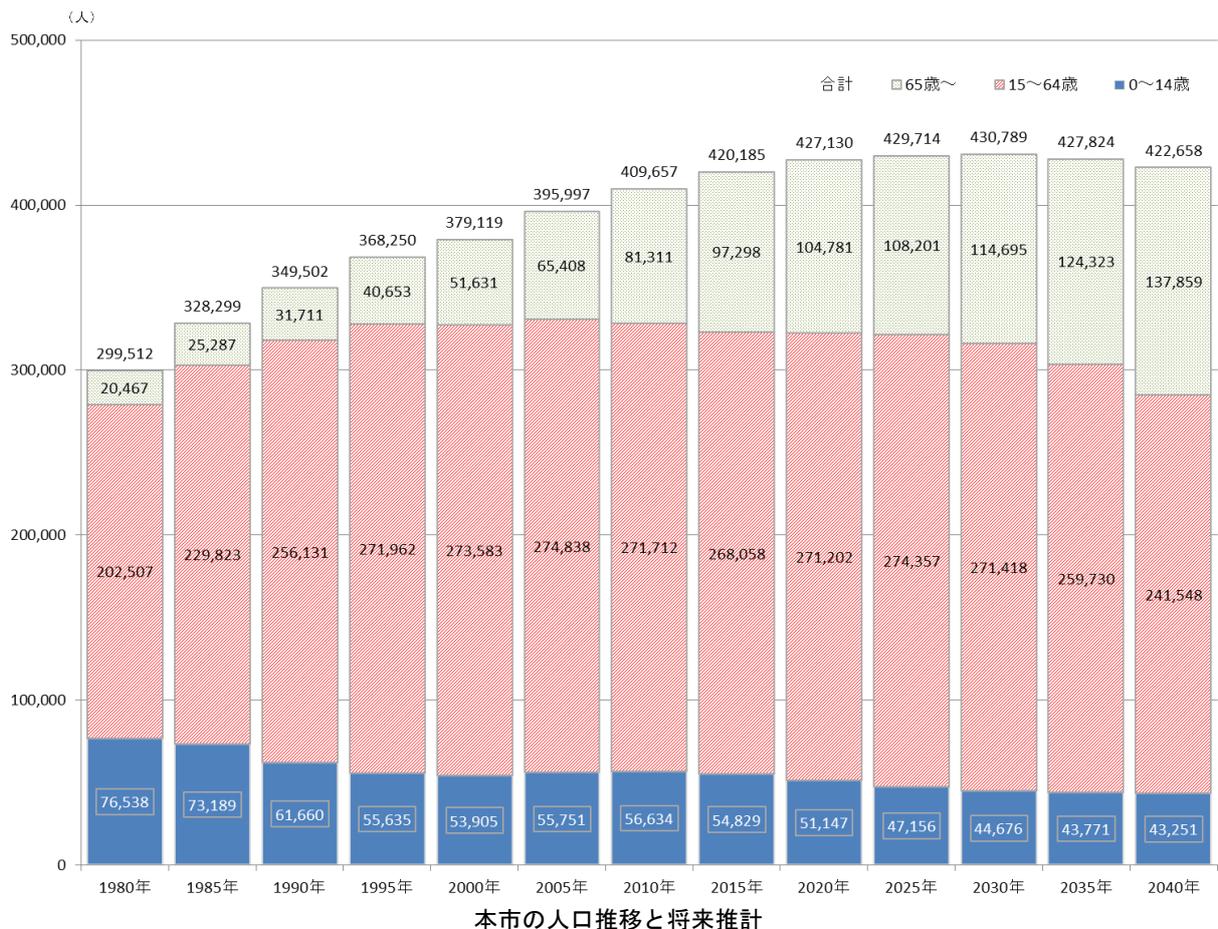
### (1) 人口の見通し

2030年（令和12年）までは人口が微増し、その後減少に転じると推計されています。この減少の幅を抑制することで、本市の都市基盤や活力を維持することにつながるものと想定されます。

少子化については、当面の間は継続する傾向にあることから、安心して産み育てられるような環境づくりを確実にかつ長期的な視点に立って進めていくことが必要と考えられます。

高齢化については、都市の人口構造上、急速に進展するものと考えられ、現に湘南大庭地区や片瀬地区の高齢化は他地区と比較して進んできています。

転入人口については、経済情勢に応じた不動産市場の動向によって大きく変化します。大規模開発の進捗に応じた転入は一定期待されますが、地方からの移住者が多いのではなく、首都圏、近隣市町からの転入が大半であることから、良質な住宅都市としてのイメージと基盤形成が必要となってきます。



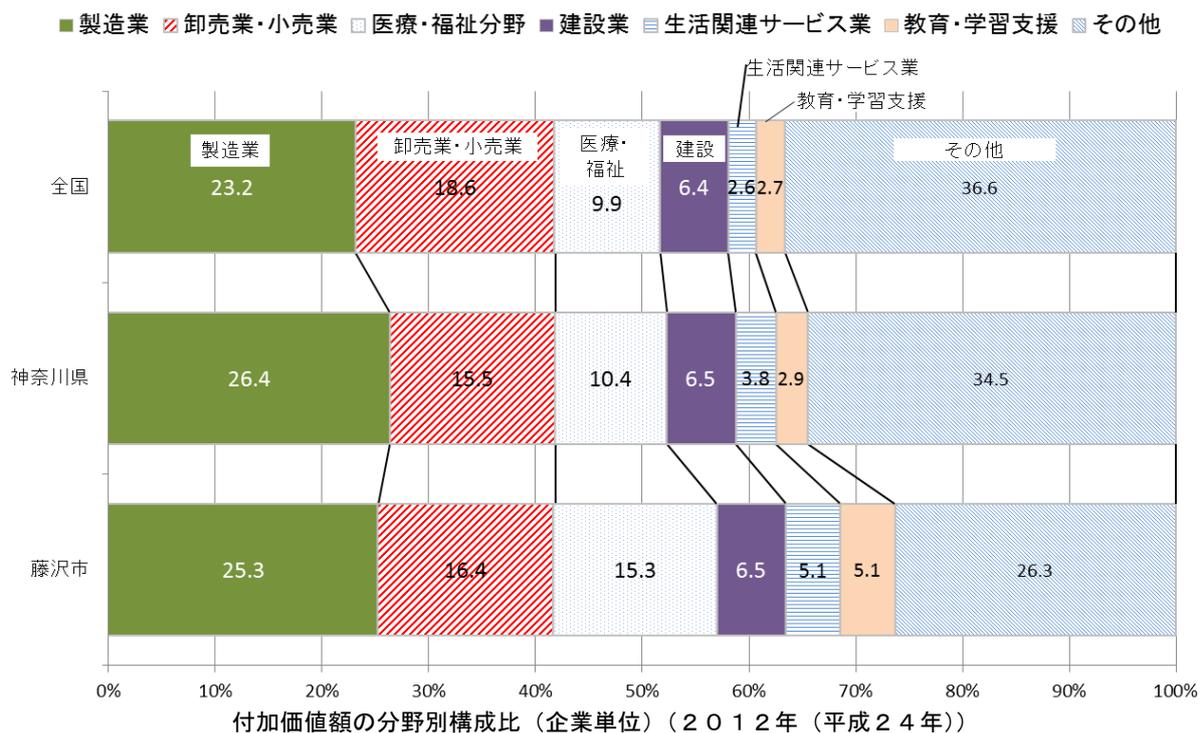
## (2) 地域経済の見通し

生産年齢人口が減少する中で、労働生産性を維持するための技術革新と本市への産業分野の誘導、企業の誘致が必要となりますが、外部要因が大きく、確実な成果を見込めるものではありません。

現在の産業動向からは、製造業、卸売業・小売業の付加価値額が高く、これらは域外収支<sup>1</sup>も高くなっています。また、東京2020オリンピックのセーリング競技会場が江の島に決定したことを受け、この気運を捉えた積極的な海外誘客と国内誘客を推進する必要があります。

一方で、域内需要、域内調達率等を高め、域内循環を推進するため、創業、第二創業の推進、知名度の向上を生かした企業誘致等についても積極的に取り組むことが有効であると考えられます。

<sup>1</sup> 域外収支 地域外（市外）に販売した財やサービスと地域外（市外）から仕入れた財やサービスの金額の差で、地域外の販売等の額を増やすことで経済規模が大きくなり、これがプラスであることは都市が経済的に自立していることを示す尺度の一つといえます。



### ③ 外部要因・機会等

これからの社会経済情勢は大変厳しいものが想定されますが、その一方で、藤沢を取り巻く外部の要因や機会としては次のような好材料も存在しています。

そのため、こうした要因や機会を最大限有効に活用していくことが重要になるものと考えられます。

ア 東京2020オリンピック・パラリンピック

イ さがみロボット産業特区

ウ 京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区

エ 道路ネットワークの充実（圏央道，横浜藤沢線，藤沢厚木線等）

オ 鉄軌道ネットワークの充実（いずみ野線，東海道新幹線新駅等）

### 3 人口と都市政策の基本方針（人口ビジョン）

「2 将来の見通し」を踏まえ、人口と都市政策の基本方針（人口ビジョン）を定めます。

#### 基本方針

2050年まで人口40万人を維持し、高齢化率40%になっても都市と市民生活の質的低下を招くことなく、都市を『元気に』持続する。

藤沢の市民と都市は高いポテンシャルを有しており、それは長年にわたる市民活動、経済活動、基盤整備などによる財産であるものと考えられます。

この財産を次世代にしっかりと引き継ぐためには、魅力や活力を継承しつつ、外部要因の変化に左右されない成熟した「藤沢らしさ」を「元気」と「誇り」をもって定着させていくことが必要となってきます。

### 4 「まち・ひと・しごと」づくりの基本目標

基本方針を踏まえ、「まち・ひと・しごと」創生に結びつく展開を一体的に図るよう、基本目標を定めます。

#### 基本目標1 魅力あふれる元気な都市を創る（まち）

江の島や湘南という言葉に象徴される、藤沢のもつ柔和で爽やかなイメージを高めつつ、そのイメージが「誇り」として市民に息づくよう、これまでの歴史・文化が織りなす魅力に磨きをかけるとともに、東京2020オリンピックの共同開催都市としての機会を捉えた新たな魅力の創造に取り組みます。

〈2020年（令和2年）のベンチマーク〉

- 観光客数 年間2,000万人（2014年（平成26年）：1,773万人）
- 市民意識調査における地域愛着度 80%（2015年（平成27年）：77%）

## 基本目標 2 あらゆる世代の市民の元気を創る（ひと）

少子化に歯止めをかけるため、「子育てが似合う」都市イメージを確立することにより、若い世代の転入人口と生産年齢人口を維持し、安心して子育てができる環境づくりを推進します。また、生活習慣病予防、健康づくりの視点から、あらゆる世代での身体活動・運動を促進します。

〈2020年（令和2年）のベンチマーク〉

- 待機児童数 0人（2015年（平成27年）：83人）
- 健康寿命（日常生活動作が自立している期間の平均） 1歳増  
（平成25年度：〈男性〉79.9歳，〈女性〉84.0歳）

## 基本目標 3 元気で活力ある地域と経済を創る（しごと）

藤沢で、また住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、身近な健康づくりや暮らしやすさの向上を目指した市民活動を促進するとともに、都市の持続性を向上するための経済活動を支援します。

〈2020年（令和2年）のベンチマーク〉

- 地域福祉ボランティア登録者数 5,000人  
（平成26年度：4,491人）
- 市内企業の売上動向（BSI） 平成26年度下期実績の5ポイント増  
（平成26年度下期実績（対前期比）：▲15ポイント）

## 5 まち・ひと・しごとづくりの主要な施策と重要事業

「3 人口と都市政策の基本方針（人口ビジョン）」と「4 「まち・ひと・しごと」づくりの基本目標」を踏まえ、次の主要な施策，重点事業を中心とした取組を進めます。

基本目標 1 魅力あふれる元気な都市を創る（まち）		
主要な施策 1 多彩なシティプロモーションの推進		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標 <sup>2</sup>
ふじさわ宿交流館の整備	藤沢宿の魅力と文化を高め，市民等の交流を促進する事業を進めます。	年間来訪者数 (2.5万人)
市民との協働による藤沢の魅力発信組織・事業の運営	藤沢における交流・定住を促進するため，魅力の再認識と創造を目指したシティプロモーションを推進します。	ふじさわファンクラブ登録者数(4,300人)
ロボットと共生する未来社会の推進 (令和3年追加事業)	生活支援ロボットの利活用及び普及啓発を推進する事業を進めます。	年間ロボテラス来訪者数(5,000人)
藤沢駅東西地下通路の再整備(令和3年追加事業)	交通の結節点である藤沢駅において，にぎわいや交流等を促進するとともに，来街者が円滑に通行できる空間を整備します。	地下通路歩行者数 (15%増)
主要な施策 2 オリジナルに向けた海外・国内誘客の促進		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
Free Wi-Fi の拡充 (外国人誘客促進事業)	東京2020オリンピックの会場である江の島を中心に無料のWi-Fi環境を構築し，観光誘客を促進します。	外国人観光客数 (15%増)
多言語表示の拡充 (外国人誘客促進事業)	店舗メニュー等の多言語表示を拡充し，飲食の機会と環境を向上することにより，観光誘客を促進します。	取扱事業者の割合 (60%)

<sup>2</sup> 重要業績評価指標（KPI：Key Performance Indicator） 目標の達成度合いを計る定量的な尺度で，現況を指し示す様々な指標の中から，進捗を表現するのに最も適していると思われるものが選択されます。

ビッグデータ・デジタル技術等を活用した観光振興（令和3年追加事業）	ビッグデータ・デジタル技術等を活用し、誰もが楽しく安心して周遊できるような環境を整えることで、更なる観光誘客に取り組みます。	年間観光客数（2,000万人）
主要な施策3 市民の文化芸術活動への支援		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
オリンピックと関連した文化芸術の振興	東京2020オリンピックに向け、文化芸術プログラムを策定し、藤沢市アートスペース（FAS）等を拠点とした、新たな文化芸術振興に取り組みます。	活動、参加者数（年間3万人）

※ 重要業績評価指標は、2020年（令和2年）の目標値（令和3年追加事業については、事業開始後直近の集計時の目標値）

※ 重点事業中の括弧書きの事業は、平成26年度地方創生先行型事業

<b>基本目標2 あらゆる世代の市民の元気を創る（ひと）</b>		
主要な施策1 地域のニーズに即した子ども・子育て支援の充実		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
放課後児童クラブの拡充	放課後等における安心・安全な居場所、生活の場を確保するため、放課後児童クラブの拡充を図ります。	定員（4,000人）
主要な施策2 待機児童解消をはじめとする保育環境の充実		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
保育所施設整備等の推進	子ども・子育て支援事業計画に基づき、認可保育所や小規模保育施設等の整備による定員拡大を図ります。	定員（ニーズの充足率100%）
主要な施策3 困難を有する子ども・若者の自立支援		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
若者をはじめとする就労支援等の推進	就労に困難を有する若年者の自立、就職、定着に至るまでの支援を推進します。	進路決定者数（年間50人）
主要な施策4 健康づくりの推進		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標

健康づくり推進に関する講座等の開催	健康講座等を気づきの機会として、身体活動・運動を促進することで、健康寿命の延伸を目指します。	体を動かす人の割合（10%増）
-------------------	--	-----------------

基本目標3 元気で活力ある地域と経済を創る（しごと）		
主要な施策1 地域コミュニティ活動への支援		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
事業インセンティブ（ポイント制度）の運用	市民のボランティア、市政参加を促進するため、統一的なポイント制度を導入します。	ポイントカード所有者数（1万人）
主要な施策2 住み慣れた地域における生活支援の充実		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
「藤沢型地域包括ケアシステム」の構築・推進	すべての市民が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、藤沢型地域包括ケアシステムを構築・推進します。	CSW <sup>3</sup> 配置地区数（ニーズ充足率100%）
介護人材確保映画制作支援	介護職の魅力を伝え介護人材を確保する映画の企画、制作を支援します。	延べ映画鑑賞者数 5,000人
主要な施策3 中小企業の経営安定のための支援		
重点事業	取組の概要	重要業績評価指標
展示会出展助成（販路拡大支援事業）	地域経済活力の源泉である中小企業の新製品・新技術等の販路拡大を促すため、国内・海外の展示会への出展を支援します。	商談中の案件数（1社1展示会当たり5件）

<sup>3</sup> CSW（コミュニティソーシャルワーカー） 地域において、支援を必要とする人々の生活圏や人間関係等の環境面を重視した援助を行うとともに、地域での支援活動と支援を必要とする人とを結びつけたり、新たなサービスを開発したり、公的制度との関係を調整したりする社会福祉活動（コミュニティソーシャルワーク）を行う人をいいます。